



Let's Building Log-house



第4章

「ハンドカット」も「マシンカット」も魅力たっぷり！

憧れのログハウス を作ってみよう！

セルフビルドの憧れを語るとき、誰もが一度は考えるのが
「丸太小屋=ログハウス」の存在ではないだろうか？
その魅力たっぷりの建物の作り方についてご紹介していこう！



ログハウスのタイプと特徴

私が「ハンドカットログハウス」のセルフビルドを勧めない理由

私が初めて作った建物は「ログハウス」だった。これは、若い頃に在籍していたログハウスメーカーで、プロのログビルダーとして建てたものだ。その後、ログハウス雑誌を編集していた出版社で、約7年間、ログハウスの記事を書く日々を送った。この頃は、日本国内はもちろん、本場カナダやアメリカなどのログハウスも取材する機会を得ることができた。

そんな私の経験で言えるのは、ログハウスは素人でも作りやすい建物ではあるが、「ハンドカット」はいろいろな意味でハードルの高い建物ということだ。

ハンドカットとマシンカットの違いを知ろう！

ログハウスの種類には、大きく分けて「ハンドカット」と「マシンカット」がある。いずれも、ログ材（丸太や製材したもの）を横積みにして壁を形成していくのが最大の特徴で、この作業が初心者でも理解しやすく、しかも丈夫な建物を作れることからセルフビルダーたちの絶大な人気を得ているわけだ。

まず、マシンカットについてだが、これはコンピューター制御された専用機械で加工されたログ材を組み上げるだけで建てられるプラモデル的なログハウスだ。細い

◆ログハウスの特徴と魅力



ログハウスの構造体は強度が高く、耐震性や耐風性にとても優れている。また、ログ材自体がもつ断熱性や調湿性も魅力と言える。そして、ふんだんに使われる木材が表し仕上げとなるため、木の雰囲気や香りを存分に楽しめることも大きな魅力だ

ログ材を使えばクレーンも無用とあって、この手軽さが週末セルフビルダーたちに受け入れられている。メーカーもそのニーズに応えるために、屋根材や窓、ドアなどを同梱してキットにした商品を数多くラインナップしているわけだ。より手軽にセルフビルドをするなら、このマシンカットでチャレンジしてみるのがいいと思う。

◆主なログハウスのタイプ



【ハンドカット】

丸太をチェーンソーで加工して作るログハウス。工期が長くなる傾向があり、クレーンなどが必要になるケースも多いが、完成時の感激はひとしおだ。木の雰囲気にあふれるワイルド感もハンドカットならではの



【マシンカット】

工場で精密にカットされたログ材を積み上げていくタイプ。基本的にチェーンソーを使わないので、素人でもプラモデル感覚で比較的容易に建てられる。仕上がりの雰囲気も洗練されていて、女性にも人気が高い



【ポスト&ビーム】

丸太の柱と梁で構造体を作る「軸組み構法」のログハウス。地上で丸太を加工できるので工期を短縮しやすい。写真は壁に丸太を落とし込む「ピーセンピース」で、軸組みとログハウスの魅力を兼ね備える

一方のハンドカットは、原木の丸太をチェーンソーで一本一本加工しながら積み上げるという文字通り手作り感満載のログハウスだ。すべてが手作業となるため、そこに費やす時間や汗の量はマシンカットの比ではない。扱う丸太もかなりの重量となるので、ひとりで動かすのは重労働。積み上げる壁が高くなってくれば、クレーンなどの重機も必要になる。もちろん、チェーンソーの技術も必要不可欠だ。これらが前述の「ハードルの高さ」に繋がっており、それなりの覚悟がない人には、正直、ハンドカットはお勧めしない。

しかし、逆にこうした苦労を理解したうえで、あえてハンドカットに挑戦している人は少なくない。実際、私のセルフビルド仲間の多くもチャレンジしているし、なかには細腕の女性もいる。彼ら彼女たちの体験談はヘタなドラマよりも断然おもしろく、完成したときの感動はこの上ないものがあったという。ハンドの場合は、使用する材料が自然の丸太なので、多少のカットミスや傷、すき間などがあっても気にならないし、むしろそれがいい雰囲気醸し出してくれるメリットもある。

マシンとハンド、どちらがいいとは一概には言えないが、どちらを選ぶか悩むこともセルフビルドの楽しみのひとつと言えるだろう。

超オススメの「ポスト&ビーム」とは？

さて、ログハウスには、もうひとつの選択肢がある。それが、私が実際にセルフビルドして第5章でご紹介している「ポスト&ビーム」だ。ハンドカットと同じようにチェーンソーで丸太を加工して作る点は変わらないが、丸太を横積みで壁にするのではなく、柱や梁などの構造体として使うことが大きな違いとなっている。すなわち、軸組み構法のログハウスというわけだ。

このポスト&ビームでは、すべての材料を最初に加工してから一気に棟上げ（上棟）するため、ハンドカットと比較すると工期を大幅に短縮できるのがメリット。材料の刻みを地上で行えることから、安全性や作業効率の向上にも繋がる。さらに、壁に丸太を落とし込んでいく「ピーセンピース」なら、木の家の雰囲気もたっぷり味わうことができる。まさに、ログハウスと軸組み構法のいいとこどりができるわけだ。



ハードな作業となるハンドカットのログハウス作りだが、女性がひとりでトライした例もある。それなりの苦労を覚悟したうえでのチャレンジなら、完成したときの感動は間違いなく、それが人生のかけがえのない宝物にもなることをお約束する



マシンカットは、チェーンソーや重機を使わずにログ積みできることが大きなメリットになる。また、屋根や建具などの材料が同梱されたキットを利用することで、セルフビルドのハードルはさらに低くなる。素人にとっては、とても作りやすい建物といえるだろう



使用する「道具」と「ログ材」

チェーンソーは、軽快に扱える中～小型機、丸太は国産のスギ材がオススメ！

ハンドカットの場合、なくてはならないツールといえるのが「チェーンソー」だ。あまり一般的な道具ではないが、ログワークにおける力は絶大。作業をスムーズに進めるためにも、的確なチェーンソーを選びたい。

まず、チェーンソー選びの基準になるのが「排気量」。チェーンソーのパワーは排気量に比例していて、プロのビルダーは50cc以上の大型チェーンソーを使っている。しかし、初めてチェーンソーを握る入門者にオススメなのはズバリ、排気量45cc前後の中型機だ。これなら比較的軽量で扱いやすいし、通常のログワークも十分にこなせる。また、柱のホゾを刻むような場面では、さらに軽量コンパクトなチェーンソーがあると重宝する。排気量38cc程度で、カービングバーとショートピッチのチェーンの組み合わせが最強だ。いずれの場合も、安全のためにブレーキ機構のあるタイプを選びたい。

実際にチェーンソーを購入する場合、性能や耐久性を考慮するとスチールやハスクバーナなどのプロ仕様機が

安心だが、予算的に厳しければホームユース機を選択するのもアリだ。購入先は、消耗パーツの交換や修理といったアフター面で、プロの整備士のいる専門店が安心できるだろう。

チェーンソー以外にもさまざまなログ専用ツールがあるが、プロのログビルダーになるわけではないので、ここでは最低限必要なツールを紹介しておく。専門店でないし入手しにくいものもあるが、ネット通販を利用すれば、比較的手軽に購入可能だ。

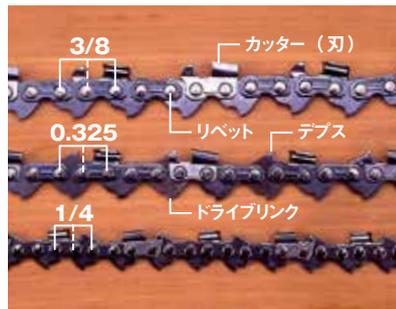
ログハウスの材料となる「丸太」に関しては、素性がよくて軽量の「スギ材」が扱いやすい。強度や耐久性なども優れているし、材質も軟らかいのでチェーンソーで加工しやすいことも大きなメリットだ。また、樹皮もむきやすく、ピーリングの労力も大幅に軽減される。見た目に優しい質感も、日本人好みのログ材といえる。太さは、末口（丸太の細いほう）の直径が20cm前後のものが扱いやすいだろう。

◆チェーンソーの選び方



【排気量=パワーで選ぶのが基本】

体力に自信がある人なら、排気量50cc超のプロ仕様を選んでいいが、ビギナーでも扱いやすいのは45cc前後の中型機。これ1台あれば、ログハウス完成後もガーデニングや薪作りなどで大活躍してくれる。予算に余裕があるなら、さらに35～38cc程度の小型機を用意できると便利だ。また近年では、騒音の少ないバッテリー式のチェーンソーも脚光を浴び始めている



【チェーンの違い】

チェーンのピッチはリベット3つの間の1/2の距離で表し、大きい順に3/8、0.325、1/4がある（単位はインチ）。通常、ピッチが大きいほどカッターのサイズも大きくなり、比較的大型の機種に採用される



【バーの形状】

通常のログワークでは、標準仕様のノーマルバーが使いやすい。先の細いカービングバーが活躍するのは、ホゾやキーウエイなどの加工。これらを状況に応じて使い分けることができれば、作業効率も向上する

◆ログビルディング用のツール類



【スクライバー】

丸太の形状を上積みした丸太に写し取るためのツール。コンパスに水準器が付いた構造になっていて、丸太同士をピッタリとフィットさせるためには欠かせないアイテムだ



【ピーリングナイフ】

丸太の皮をむくための専用ナイフで、持ち手が左右に付いている。一般には売っていないので、ネット通販で入手するか、自動車の板バネを加工して自作する人も多い



【カケヤ】

ログをセットするときの微調整に使ったり、ノッチやホゾをフィットさせるために使う大型の木槌。ヘッド部分が硬質ゴムになっているタイプは材料を傷つけにくい



【ピービー】

丸太の向きを変えたり、転がしたりするのに使う。テコの原理を利用しているので、重い丸太でも意外と簡単に動かすことができる。木回し、フェリングレバーともいう



【かすがい（ログドッグ）】

作業中に、丸太が動かないように固定するための金物。30cm程度の大型タイプが3～5本欲しい。ネット通販では「材木かすがい」などの名称で売られている



【安全装備】

チェーンソーを扱うときは、イヤマフ（耳栓）やゴーグル、チャップス（防護服）、グローブなどの安全装備を着用するのが基本。いずれもネットのログ専門店で購入可能だ

◆丸太（＝ログ材）の選び方



ログ材として扱いやすいのは、曲がりやテーパーの少ない「スギ材」。傷やフシも少ないほうがいい。丸太が山積みになっている土場で一本一本チェックするのは難しいが、できるだけ自分の目で見て選んでいくのが理想だ。丸太を伐り出す時期は、含水率の下がる「冬」が基本。含水率が少ないほど経年変化やカビの発生が少なくなる。また、新月の頃に伐採した木を葉枯らしさせたものは狂いが少なく、虫の発生も少ない極上の材になるそうだ

◆ピーリングの方法



ログ材は作業前にピーリング（樹皮をむくこと）するのが基本。樹皮がついたままだと雨を吸って腐ったり、虫もつきやすくなる。加工時も樹皮がないほうが、墨付けをはじめとして作業がしやすい。電動カシナでむく方法もあるが、専用ナイフやカマでもむける。腕力ではなく体全体を使ってナイフを動かすことで疲労は少なくできる



チェーンソーの基本を知る

チェーンソーのポテンシャルを100%引き出すための扱い方とメンテナンス術

ログハウス作りの主役ツールである「チェーンソー」は、扱い方を間違えると危険な道具だけに、安全かつ的確な操作方法を覚えておきたい。

まず、チェーンソーのエンジンをかける前にチェックしておきたいのが、各所のボルトやネジの緩み。緩みを放置しておくと、チェーンの張り具合が変化したり、パーツを紛失したりしてしまう。また、毎回必ず点検しておきたいのがチェーンの状態だ。刃の目立て（研ぎ）具合やチェーンの張り具合によって、作業効率は大きく変わってしまう。

そして、燃料とオイルは必ず良質なものを使うことも重要。エンジンや駆動系のトラブルの多くは、混合比が不適格な燃料や粗悪なオイルの使用が原因になっているのだ。また、混合燃料は作り置きしないで、つねに新鮮なものを使うこともエンジンのためになる。

エンジンを始動するときは、チェーンソーのボディを地面にしっかり安定させてからスターターを引くことが

大切。グラグラと不安定な状態だと、エンジンが始動したときに危険だ。もちろん、始動時も使用中も周囲の安全を確認することを忘れずに。

チェーンソーの始動後は、エンジン音や排気の色、アイドリング状態などを点検し、チェーンブレイキの動作も確認しておこう。なお、新品のチェーンソーでは、アイドリング状態で満タンの燃料がなくなるまで慣らし運転ができればベターだ。

チェーンソーを末永く使い続けるために、絶対に欠かせないのがメンテナンス。その基本は「クリーニング」で、チェーンソーをマメに掃除してやることで故障は激減し、寿命も大幅に延ばすことができる。とくに、エアフィルターやオイルポンプまわりの汚れはエンジン不調の原因になりやすいので、優しくケアしてあげたい。

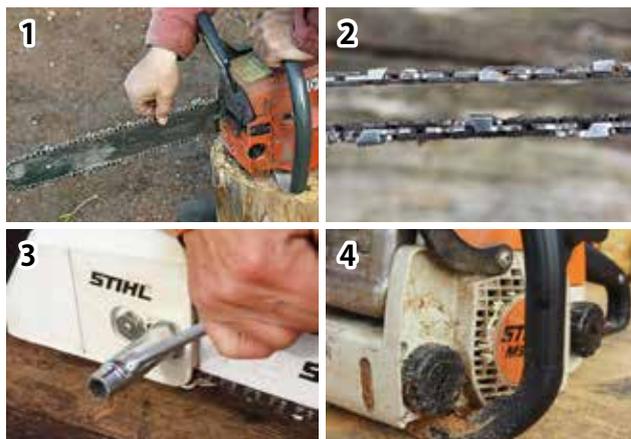
そして、忘れていけないのが「刃の目立て」。切れない刃を使うのは効率が悪くて危険でもあるし、チェーンソーの故障にもつながる。マメな目立てを心掛けよう！

◆燃料とチェーンオイルの準備



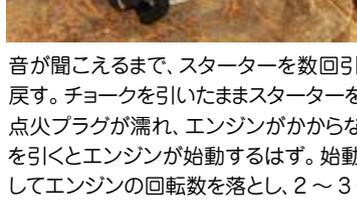
チェーンソーの燃料には、ガソリンとエンジンオイルを適正な比率で混ぜた「混合ガソリン」を使う。以前は25：1の比率が一般的だったが、現在では50：1以上のタイプが普及している。なお、ガソリンは古くなると成分が変化してしまうので、作り置きしないでつねに新鮮な燃料を使うように心掛けよう。チェーンやスプロケットなどの潤滑油になるのが「チェーンオイル」。これがなくなると、駆動系の故障につながるの、燃料を給油するときには、かならずチェーンオイルも満タンにしておこう

◆始業前のチェックポイント



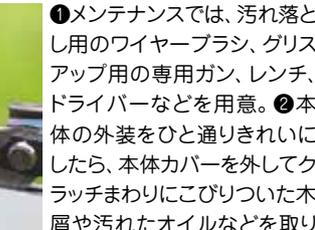
①まず、チェーンの張り具合をチェック。張りが緩すぎてもきつすぎてもトラブルの原因になる。②刃先の切れ味は作業効率を大幅に左右するので、切れが甘そうならしっかり目立てしておきたい。③チェーンソーはエンジンの振動によってどうしてもナットやネジなどが緩みやすくなる。始業点検時には、必ずこれらの緩みをチェックしておこう。④吸気口やマフラーの排気口などにゴミが詰まっていると、エンジンが始動しないだけでなく故障の原因にもなる。マメな掃除を忘れずに！

◆エンジンの始動方法



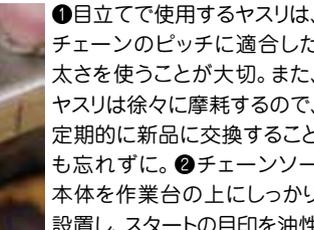
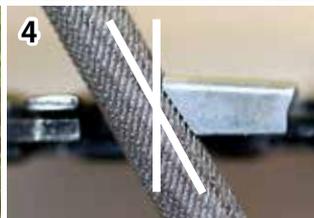
①まず、本体を安定した場所に置き、ハンドガードを前方に倒してチェーンブレイキを掛けたらスイッチをオン。②続いて、本体が冷えている場合はチョークノブを引く（写真は押し下げるタイプ）。これによって濃い混合気がエンジンに送られ、始動しやすくなる。ただし、エンジンが暖まっている場合は不要。③最初の爆発音が聞こえるまで、スターターを数回引く。④初爆音が聞こえたらチョークを戻す。チョークを引いたままスターターを引き続けると、燃料を吸い込み過ぎて点火プラグが濡れ、エンジンがかからなくなるので注意。⑤再度、スターターを引くとエンジンが始動するはず。始動後はブレーキを解除し、軽く空ぶかししてエンジンの回転数を落とし、2～3分暖機運転してから作業に入ろう！

◆チェーンソーの基本的なメンテナンス



①メンテナンスでは、汚れ落とし用のワイヤーブラシ、グリスアップ用の専用ガン、レンチ、ドライバーなどを用意。②本体の外装をひと通りきれいにしたら、本体カバーを外してクラッチまわりにこびりついた木屑や汚れたオイルなどを取り除く。この作業は毎回やるのが理想だ。③エアフィルターも定期的なクリーニングが大切。いろいろなタイプがあるので、取扱説明書に沿って作業したい。④エンジンプラグがカーボンで汚れているときは、ワイヤーブラシで磨いておく。電極が減っている場合は、新品に交換だ。⑤バーの溝の汚れは専用ツールで落とすとよい。⑥スプロケットタイプは、定期的に専用ガンでグリスアップする。⑦チェーンの張り具合は、指で引っ張ったときにドライブリンクが少し見える程度が適正だ

◆覚えておきたい目立ての方法



①目立てで使用使用するヤスリは、チェーンのピッチに適合した太さを使うことが大切。また、ヤスリは徐々に摩耗するので、定期的に新品に交換することも忘れずに。②チェーンソー本体を作業台の上をしっかり設置し、スタートの目印を油性ペンでマークする。③ヤスリを刃の上側に水平にあてがい、押しながら研ぐのが基本。④ヤスリは刃に対して25～30度の角度に当てて、ひとつの刃で2～3回研ぐのが目安。⑤こんな感じに研げれば成功。チェーンソーの刃の向きは交互に配置されているので、片側ずつ研いでいこう。⑥慣れないうちは、専用ゲージを使うと便利だ。⑦刃の切れ込み深さを調整する「デプス」も定期的に削る。このように専用のゲージをあてがって、上にはみ出ている部分を平ヤスリで削ればよい



チェーンソーワークの超基本

チェーンソーは正しい持ち方で操作することで、安全で確実な作業を楽しめる

チェーンソーの扱い方には、いくつかのポイントがある。なかでも一番基本になるのがチェーンソーの「持ち方」だ。左手で前ハンドル、右手で後ろハンドルを握ったら、脇を締めてボディの一部を身体に密着、あるいは腕を膝に置くなどして、チェーンソーの重量を身体に分散させるのがキモになる。初めてチェーンソーを持つとどうしても手持ち状態になりやすいが、これだとチェーンソーが安定せずに正確なカットができないだけでなく、疲労度も増して突然のキックバックなどにも対応しにくい。最初に基本のスタイルを身につけよう。

ログワークの基本である「玉切り」では、ログの長さや太さ、支点の位置などによってカットする順番が違ってくるが、どの場合でもカットラインと目線、チェーンソーのバーを一直線上に置くことがポイントになる。そして、カット中はアクセルをほぼ全開状態にしてやる。

◆チェーンソーの基本的な扱い方

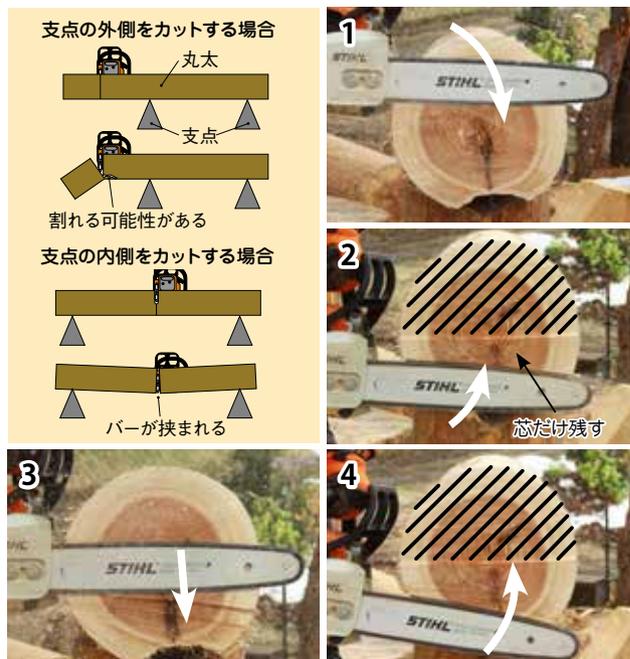


①チェーンソーを使うときは、スタンスを前後に軽く開き、リラックスした状態でチェーンソーを腰の位置で構えるのが基本。このため、カットする材料を腰～膝上の位置に置く高さのウマ（作業台）を使うのが理想だ。②状況次第では腰を落したり、しゃがむなどして臨機応変に対応したい。③左手は前ハンドルを握り、万一のキックバックに備える。後ろハンドルを握る右手は人差し指でスロットルをコントロールする。④どんな切り方でも、チェーンソーの重量を身体に分散させる気持ちで操作すると、長時間の作業でも疲れにくい。写真の場合は、右腕をヒザの上に預けてチェーンソーの重さを分散している

定期的にアクセルを戻してやれば、エンジンが焼き付くことはない。むしろ、低速でダラダラと作業するほうが、エンジンに負担を与えてしまうのだ。

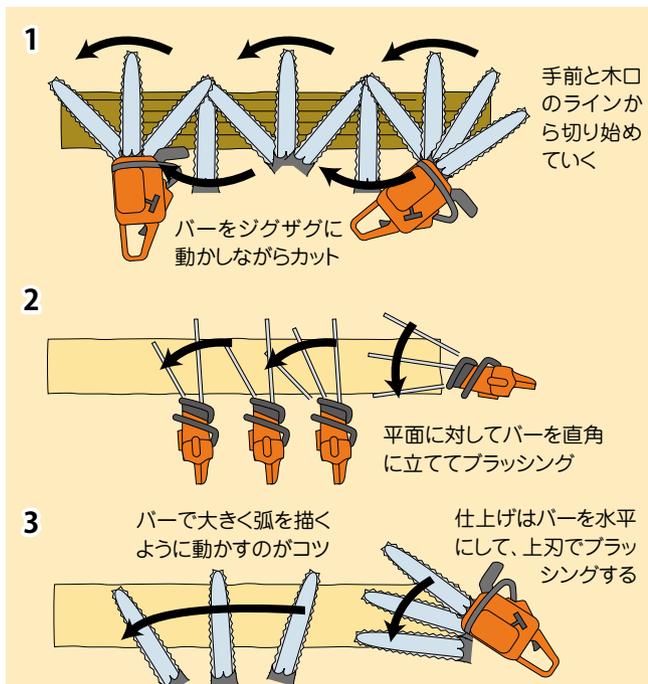
基本的な玉切りをマスターできたら、続いて実際のログハウス作りでも多用する「平面カット」と「ブラッシング」を練習してみよう。この作業のコツは、「カットを急がない」こと。とくに平面カットの場合、切りたい方向にうまく進まない焦ってしまうものだが、カットラインが一度曲がり始めてしまうと修正が難しくなる。ここはあわてずにスロットルを戻し、少し前に戻ってから落ち着いてカットをやり直すのが正解だ。

◆「玉切り」の基本



丸太の支点の外側を玉切りする場合、上から最後までカットすると切り離す丸太の重みで木口が割れやすい。また、支点の内側をカットする場合はバーを挟まれやすい。①まず、支点のどこを切る場合でも、上から半分ほどまでカットする。ボディ前方にあるスパイクを丸太に突き刺し、バー先端で弧を描くようにすると楽に切れる。②支点の外側を切るときは、下半分は下から切り上げ、③最後に丸太の芯を上から切り下げるとよい。④支点の内側を切る場合は、下半分を下から最後まで切り上げていく。切り離す瞬間、丸太が足の上に落ちないように注意

◆平面カットのポイント



丸太の縦挽き=平面カットは、①のようにチェーンソーのバーをジグザグに動かしながら行うのが基本。この理由は、手前側と反対側のどちらか一方のカットに視線と気持ちを集中するためだ。切りはじめは木口と手前側の2本の墨に沿ってバーを入れ、バー先端が反対側に届いたらスパイクを丸太に利かせて反対側のカットに入る。扇状にカットしたら、今度は手前側をカットして、それを繰り返していくわけだ。平面カットができたら、表面のデコボコを均すために②、③の要領でブラッシングしていく

◆平面カットのための墨つけ方法



丸太を平面カットするためには、正確な墨付けが大切だ。ポイントは、丸太の側面に墨を打つときに、必ずカットする方向の延長線上に墨糸を引っ張ること。これが斜めになってしまうと大きな誤差ができてしまう。①まずは、木口にカットラインを引く。水平器を使って正確に墨付けしよう。②カット方向の延長線上に墨糸を引っ張る。木口の垂線に水平器を当てて、それを基準に墨糸を引いていくと、より正確な墨打ちができる

◆平面カットとブラッシング仕上げの実際

墨付けが完了したら、カットラインを水平に置き直してログドッグなどで作業台に固定する。作業台は、丸太が腰の位置になるような高さを使いやすい。①まずは、手前側と木口の墨から切り込んでいく。最初はカットラインより1cmほど余裕を見ておこう。②木口を切り終えたら、手前側にスパイクを利かせた状態で、そのまま反対側を扇状にカットしていく。③続いて、バー先端を一点に止めながら手前側をカット。この連続で丸太を縦挽きしていくわけだ。④反対側のラインをカットするときは、スロットルを親指で操作すると姿勢が楽になる。目線はつねにカットラインを追うことが大切。⑤カットラインが曲がってしまったら無理して切り進めず、少しバーを戻して切り直すのが正解だ。⑥平面カットが完了したら、続いて「ブラッシング」。まずは平面に対してバーを立てた状態で、大きくワイパーのように動かす。⑦つねにバーの軌道をクロスさせるのがコツ。この段階でカットラインぎりぎりまで仕上げる。⑧ある程度凹凸がなくなってきたら、今度はバーを横に寝かせ、上刃を使ってブラッシングしていく。この場合も、バーの動きをクロスさせていくことが大切。⑨この程度の平面になればOKだ



用語解説 玉切り ▶ 丸太を木口と平行にカットして必要な長さにする事。

女性ひとりで、3年間かけて作った「夢の丸太小屋」

前述したように、私は雑誌の仕事で何百棟ものログハウスを見てきた。それらのなかでもっとも強烈な印象だったひとつが、ここで紹介する小さな丸太小屋だ。

四輪駆動車でしか登れないほどの急峻な坂を登り切った山頂、ポッカーと木立が切れた日溜まりに、その丸太小屋は建っている。一見すると、壁にはさがパラパラのスギやヒノキが積まれていて、屋根にはスギを割って自作したウッドシェイクが張られている。まさに、「丸太小屋」と呼ぶにふさわしい手作り感にあふれた建物だ。

この小屋を3年がかりで完成させたのは、千葉県在住の女性・Rさん。当時、幼いお子さんのママだったRさんは、自然溢れる環境で子供たちと一緒に丸太小屋を建てるのが夢だったそうだ。それが最高の子供の教育にもなるとの信念で、この地での夢の実現を決断したとのこと。しかし、電気も水も道さえもない男性でも尻込みするような現場では、苦労の連続だったとか。

何よりも凄いのは、現地の山に生えているヒノキやス

ギの木を自分で伐採して、それをログ材にしていること。これは、私が若かった頃のログビルダーたちの共通の理想で、当時それを実現させた人は尊敬の念で見られていたのだ。それを、いまこの時代に実現したのが細腕の女性なんだからビックリである。

小屋の細部の造作などは素人らしい稚拙な部分もあるものの、仕上げや収まりなどは二の次で、作った本人が納得できる家であればそれで全然問題ないと思う。百年も二百年も持たせる家を建てるなら別だが、自分で建てた家なら部分的に補修しながら使っていけばいいだけの話だ。建築基準法とか建築確認の申請が素人にとって難しくなっているこんな時代だからこそ、こうした隠れ家的な丸太小屋を建てられるっていうのは、すごく貴重なことだと思う。

いろいろ考え過ぎてしまうと、夢を実現するための最初の一步目を踏み出すのにかなりの勇気が必要になってしまいが、その意味ではRさんのようにある程度の見切



憧れの丸太小屋を実現するために、そして家族との絆を確かめるために始めたセルフビルド。当初は電気も水もない環境だったが、それらもすべて自分で手配して山頂まで引いてきた。ひとつひとつが完全手作りの、情熱あふれる現場だった



クレーンがない現場では、丸太を壁の上に持ち上げるのもひと苦労だ。「この丸太小屋作りを通して、腕力も気持ちもたくましくなりましたよ（笑）」



自分自身で伐採した丸太を積み上げ、屋根も自作のウッドシェイクで仕上げた。まさに、Rさんの夢が詰まった丸太小屋だ

【小屋作リアルBUM】……すべては、材料の丸太の伐採からはじまった・・・



丸太小屋を建てる場所をネットで探し、発見したのは約1万坪の山林。ここに生えていたスギの伐採から小屋作りがスタート!



丸太の伐採と同時進行で道作り。山の麓から建設予定地までの長く急峻な坂をネットオークションで購入したユンボや刈り払い機を駆使して、ひとりで造成したのだ!



山林の伐採でチェーンソーの扱いは慣れたものの、ログワークは少々勝手が違う。重いログをひとりで積み上げるのも、ひと苦労だったとか……



普段は都市部に暮らすRさんだが、週末利用の作業は着々と進行。ノッチの加工も格段に上達した。とはいえ、体中にアザや生傷が絶えず……。「エクササイズだと思って頑張りました～(笑)」

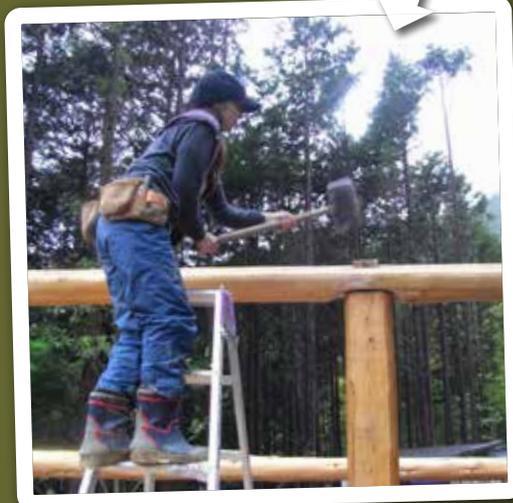
壁が高くなるにしたがって、人力での積み上げは大変になってくる。それでもめげずに全力を振り絞って作業を続けるRさん。頑張れ!



敷地内には竹もたくさん生えていたので、子供たちはこれを利用してツリーハウス作り。彼らが成長してこの現場を振り返ったとき、何を思うのだろうか……

り発車も悪くない。夢を歩んでいる人のことは、必ずどこかで誰かが見ているもの。夢とか情熱っていうのは絶対に伝染するし、同じ志を持った人たちが自然と集まってくるものなのだ。実際、この丸太小屋には、私やうちの家族、セルフビルド仲間たちも連れて何度も手伝いに行った。そして、私は丸太小屋作りの技術を教えると同時に、Rさんからはセルフビルドの本当の意味での楽しさを再確認させてもらった。

最初は頼れる仲間が全然なくて、たったひとりで丸太の伐採や山頂までの道路の造成から始めたRさんご家族。個人で作った家には、当人たちしかわからない苦労や感激のドラマが必ずある。そんなRさん家族は、とても輝いて見えた……。



「カーン!」。棟木を叩き込むカケヤの心地よい音が周囲の山々にこだまする。ついに感激の棟上げだ。この日も、パワー全開で張り切るRさんだった

【小屋作りアルバム】……屋根張り、建具作り、そして完成へ！



長い棟木もクレーンを使わずに無事に収めて、棟上げに成功！「最初の頃はわけもわからず作ってましたけど、地道に続けてればなんとかなるものですよね〜」



自分で伐採したスギを薄く割ったウッドシェイクを屋根に張っていく。「これはマジで大変でしたよ！」



丸太小屋作りでは、ログワークよりもその後の造作工事のほうが手間だ。「でも、すごく楽しめました」



造作作業は、腕力がいらないので意外と女性向きだった。「多少は雑だったりしますが、内装は建物の強度には関係ないから問題ないですよ（笑）」



もちろん、ドアや窓の建具類もすべてRさんの自作だ。「最初はセトリングの対処も知りませんでしたけど、自分で作っているうちにだんだんログハウスの個性がわかってきました」



屋根や建具が入れば、外装はほぼ完成。と同時に、内壁も完成するのがログハウスのいいところ。あとは、床や天井、階段の仕上げを楽しめばOK！

キッチンもRさんの力作。「ツーバイ材で枠を組んでシンクをはめただけですけど、立派に役立ってます！」



週末だけの作業で、見事3年後にログハウスが完成した。「ここまで来られたのも、家族や仲間のお陰。当たり前ですけど、自分ひとりじゃやっぱり無理でしたね」